

令和8年3月

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立緑ヶ丘小学校
校長 龍花 千鶴

令和7年度 目黒区立緑ヶ丘小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和7年4月26日(土) 午前9時10分～午前10時45分

- ・授業参観
- ・自己紹介
- ・学校経営方針について
- ・令和7年度学校行事について
- ・質疑応答・意見交換

(2) 第2回実施日時 令和7年9月20日(土) 午前9時00分～午後12時40分

- ・授業参観
- ・道徳授業地区公開講座
- ・後期の教育活動について
- ・質疑応答・意見交換

(3) 第3回実施日時 令和8年2月14日(土) 午前11時00分～午後2時00分

- ・授業参観
- ・学校評価委員会
- ・質疑応答・意見交換

2 参加者

第1回 学校評議員 若林研司 様、栃木康昌 様、赤間淳 様、島添奈緒子 様、山本礼子 様、龍花千鶴 校長、山下浩 副校長

第2回 学校評議員 若林研司 様、栃木康昌 様、赤間淳 様、島添奈緒子 様、山本礼子 様、龍花千鶴 校長、山下浩 副校長

第2回 学校評議員 若林研司 様、栃木康昌 様、赤間淳 様、島添奈緒子 様、山本礼子 様、龍花千鶴 校長、山下浩 副校長

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度など	◎学校の雰囲気については、四者とも昨年度より肯定的な評価	・次年度は、現状の楽しさを維持しつつ、この「楽しさ」の中身(何	・傾聴と対話と信頼関係を築くということによって、来年度以降

<p>について、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて</p>	<p>が上昇した。児童が学校生活を楽しみ、それを周囲の大人が実感できている点は、教育活動の根幹において大きな成果と言える。</p> <p>◎教職員の対応については、四者とも肯定的評価が94%以上となった。四者間の信頼関係が安定していることが、学校運営の強固な基盤となっていると考えられる。ただし、高学年で、昨年度と比較すると1.4ポイントのマイナスとなった。</p>	<p>に達成感を感じているか等)を具体的に保護者へ伝える機会を増やし、より信頼を得られるように努力する。</p> <p>・今後もこの高い評価を維持していくために、日頃から傾聴と対話をより一層心掛ける。特に、高学年に対しては、結論を急がず丁寧な対応をし、より信頼関係を築くことができるように学校全体で取り組んでいく。</p>	<p>の変化を期待している。</p> <p>・数値的な比較で上がり下がりはあるが、学校には、いろいろな子がいるので、丁寧に見取っていくことを大切にしてほしい。</p>
<p>II 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎昨年度と比べ、肯定的評価が、保護者では6.4ポイントのマイナス。地域では、4.8ポイントのプラスとなった。保護者の評価が下がったことは、後の質問にある、心の教育や学習指導、体育健康教育の質問でも下がっていることと関係していると考えられる。保護者の期待しているものに、これらが到達できていなかったため、教育目標が実態に合っていないと判断されたのだと思う。</p>	<p>・教育目標について、年度当初の保護者会で丁寧に説明したり、学校ホームページなどを活用し、地域にも発信したりし、理解していただけるようにしていく。また、校内研究や、各分掌等の取組の様子について、積極的に発信し、学校の取組を地域や保護者により見えるようにしていく。</p>	<p>・教育目標は、保護者からすると見えにくいものである。昨年に比べ、回収率は上がっているため、もしかしたら、その分、分からないという評価が多くなっているのかもしれない。</p> <p>・改善案にある通り、そういった取組をしていることを発信していくことを継続することが不可欠である。</p> <p>・教育目標の言葉についても具体的に分かりやすく伝えていくことが大切である。</p>
<p>III 心の教育について</p>	<p>◎低学年・高学年・教職</p>	<p>・特別の教科「道徳」の</p>	<p>・先生たちの実感と保</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 	<p>員で、95%以上の肯定的評価を得た。教職員一人ひとりが児童の心を育てることを重要事項と捉え、発達段階に合わせた指導を行っている成果と捉える。一方で、保護者においては、肯定的評価が88.4%と9割を下回り、昨年度との比較でも3.1ポイントのマイナスとなった。これは、学校での指導内容が、家庭での子ども様子に十分に結びついていないためと考える。</p>	<p>授業だけでなく、異学年交流や地域行事への参加を通じ、他者と深く関わる中で、相手を思いやる心情の育成を目指す活動を充実させていく。また、保護者には、特別の教科「道徳」について、積極的に発信していくとともに、道徳授業地区公開講座を充実させ、地域・保護者・学校がともに考えていけるものにしていく。</p>	<p>保護者の実感に、少しさがあるように感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業地区公開講座の実施の仕方、子どもたちも講演を聴くというのはどうか。そうすると、講演会に保護者も来やすくなり、一緒に考える機会を設けることも効果があると思う。 ・保護者は、学校での友達関係やトラブルに対してどのように教育しているかを考えていると思う。そうした面で心配に感じている部分がマイナスとして出たのではないかな。
<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、習熟度別指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎児童については、低学年・高学年ともに肯定的評価が93%以上と、高水準の結果が出ており、日々の授業の改善や充実の成果が出ていると捉えることができる。保護者については、肯定的評価が前年比マイナス4.8ポイントで、85.5%となった。しかし、目黒区学力調査において、正答率はほとんどの学年で目黒区の平均を上回るとともに、どの学年も昨年度の正答率を上回っており、学力の向上につ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育支援員の配置に際し、児童の学習面に限らず、学校生活を包括的に支援できるように効果的に配置していく。 ・教員の授業力向上のため、校内OJTを強化し、授業実践の具体的な場面(発問や支援方法)などについて、話し合えるように、組織的に取り組んでいく。 ・デジタルドリルなどを活用し、家庭学習との連動を強化するとともに、保護者にも協力依頼する。また、本校の学習の状況について、分かりやすく発 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを計画的に行い、そうしたことを保護者に着実に伝えていくことが大切である。

	いて、一定の成果を得ていると捉えている。	信じ理解を得られるように努める。	
V 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎前年度に比べ、肯定的評価が、保護者でマイナス3ポイント。高学年児童で、マイナス1.6ポイント。教職員で、マイナス6.2ポイントであったが、高学年児童以外は、いずれも92%以上という高い水準であった。また、東京都統一体力テストにおいては、男子はいずれの種目も、多くの学年で東京都及び全国の平均を上回った。女子は、握力が平均を下回ったが、それ以外は、多くの種目で平均を上回った。学校として取り組んできた「パワーアップタイム」が一定の成果を上げていると考える。また、養護教諭から発信される「保健だより」において、主に健康について周知してきたことも、児童・保護者の意識の向上に効果があり、肯定的評価の高い水準を維持していることにつながったと思う。	・体力テストの結果について、体育部を中心に分析し、平均を下回った種目の向上に向けた取組を検討していく。 ・パワーアップタイムなどの体育的な取組において、より効果的に行えるよう、工夫していく。 ・学校公開などで、体育的な取組を保護者に公開する機会を設けたり、体力テストの結果の見方などについて、分かりやすく発信したりし、保護者に成果を実感することができる機会を増やす。	・学校公開の中休みに、全校児童がマラソン（ペースランニング）をしているところを参観できた。人数の多い学校だと全校が同時に実施するのは難しいと思う。こうした取組を保護者の方も参観できて良かったし、いろいろな学年が触れ合うこともできる場にもなっていた。 ・体力テストの結果も悪くなかったのなら、マイナスの要素が他の理由なのかかもしれない。もしかしたら、保護者には見えにくく、分からないという回答が多くなっていたのかもしれない。 ・握力が低かったとあったが、日頃からできることとして、掃除の際、雑巾をしっかりと絞ることが効果的である。
VI 特別活動について ・学校行事の充実、異学	◎保護者、児童、教職員ともに、93%以上の	・特別活動部が中心となって、行事や特別活	・この項目については、学校現場をよく知る

<p>年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて</p>	<p>肯定的評価であった。地域においては、前年と比較し、2.5ポイント上昇したが、83.8%という肯定的評価であった。これは、委員会活動やクラブ活動など、地域に発信していないため、判断できない、分からないという回答があったためと思われる。</p>	<p>動において、児童のアイデアを募ったり、児童が主体となって計画したりできるようにし、当事者意識を醸成していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動や委員会活動において、積極的に地域の人材を活用したり、学校ホームページなどで積極的に取組の様子を発信したりしていく。 	<p>人でないと評価し辛いところだと思う。だからこそ、いろいろな形で、学校の様子や取組をお知らせしていくことが必要である。</p>
<p>Ⅶ 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>◎肯定的評価が、高学年で4.4ポイント下がった。高学年になると、児童が自身や学級などを振り返るようになり、規律の乱れを一部感じていると思われる。一方、地域では、肯定的評価が16.5%上がった。地域との連携が増えたことによるものと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、「学校生活のきまり」について、代表委員会の児童が中心となって意見をまとめ、来年度から取り入れるようにした。今後も継続し、自分たちで決めたことを自分たちで実行し、学校の規律について再確認・再構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、子どもたち主体で、自分たちの生活を振り返りながら、生活指導を行ってほしい。また、保護者の理解が得られるようにしていくことが大切である。
<p><防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>◎安全教育については、保護者からの肯定的評価が2.8ポイント上昇し、98.3%の方から評価をいただいた。年間の計画に従い、確実に安全指導・避難訓練を行ってきたことやそのことについて学校ホームページなどで発信してきたことをご理解いただけたと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高い評価を維持できるように、生活指導部を中心に、安全指導や避難訓練の内容について、多様な災害を想定し、児童が自ら判断したり振り返ったりするなどの工夫をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練をはじめとする防災・防犯意識をしっかりと育てるためにも、マンネリ化しないようにすることが大切である。世の中も変わっていくので、常に最新の情報を取り入れながら、実施してほしい。 ・保護者の方と児童が一緒に取り組めるような防災訓練があっても良いのではない

	<p>◎事件・事故の防止については、肯定的評価が保護者で 1.8 ポイント下がったが、四者とも 94%を超える高い水準となった。特に、児童は、低学年・高学年ともに、10 ポイント近い上昇となり、児童の意識の高まりを感じる。</p>		<p>か。</p>
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>●幼・保・小・中の連携については、保護者からは見えにくいところのためか、肯定的評価が 4.1 ポイント下がった。</p>	<p>・幼・保・小・中の連携については、引き続き教員間の連絡を密に行っていく。来年度の校内研究で行うこども園との連携の取組の様子について、学校ホームページなどを活用して積極的に発信していく。</p>	<p>・中学校との連携も今まで一緒に挨拶運動などを行ってきたが、今は、校区が変わって簡単に行き来ができる距離ではなくなり、難しくなっている。</p>
<p>Ⅷ 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎保護者・地域ともに、肯定的評価が 94%以上という高い評価を得た。学校ホームページや学校便り、各担当からの発信が着実に届いている点が大きな成果と考える。教職員の評価が 12.5 ポイント下がった。これは、学校の様子を教員が主体的に発信できていないことに起因すると捉える。</p>	<p>・次年度は、学校だよりの形式を改善し、学校からの配布物の内容や数を精査し、より分かりやすく発信していく。また、学校ホームページの学校日記で各学年の児童の様子を教員からも発信できることを検討していく。</p>	<p>・データ主義になったことで配信される数がとても多い。便利でいつでも見られる一方で、後回しにしていまい貯まっていくということもあると思う。紙で配布して、子どもが親に出さないということもあったが、紙で置いてあると、ちょっとした時に読もうとなる。情報発信として、ペーパーレスも善し悪しを感じる。</p> <p>・Home & School の既読率をしっかりと把握し、お知らせを確実に目にしてもらう工夫が必要である。</p>

<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の職務とおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎肯定的評価が前年度に引き続き、100%となった。日常的な校内での研修やOJTを通して、児童理解や授業改善等を行えている表れだと考える。人材育成の質を維持するために、研修時間の確保や業務負担の軽減などが今後の課題として上げられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度は、日々の教員の日常的な研修だけでなく、経験年数の少ない教員を中心とした若手研修を計画的に行っていく。組織全体で、経験年数の少ない教員を支えるとともに、教員一人ひとりが教え合い、学び合う風土を醸成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の継続が大切である。継続していくことによって力が付いていくものだと思う。
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<p>◎肯定的評価が昨年度に比べ、12ポイント下がった。成果としては、依然として8割以上の肯定感を維持しているものの、教職員が自身の業務について密度が高くなっていると感じていることが評価の低下につながっていると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度末に行う年度末反省で出された、校務分掌の見直しを行い、業務の偏りや負担を改善していく。また、会議や報告書などの削減やデジタル化をより進め、教員が児童に向き合ったり、授業の準備をしたりするための時間や心の余裕をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場の先生方は、働き方改革をしなければいけないと思いながらも、つい業務に取り組んでしまうところがあるのではないかと。 ・ 学校として、全体で働き方改革に取り組み、時間内で終わらせるようなシステムづくりをさらに進めてほしい。
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 服務事故防止に向けた取組などについて 	<p>◎肯定的評価が前年度に引き続き、100%を維持している。服務事故を起こさないようにしようという規範意識が教職員の中に浸透していることは学校経営上の大きな成果である。しかし、「X 教員の働き方改革について」で、数値が下がったことから適切な労働環境を維持し、多忙に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「気を付ける」という意識だけでなく、物理的なシステムを築いていく。また、ダブルチェック体制を日常化させ、服務事故防止研修を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意識を高めるために、さらなる研修を継続的に進めていくということに尽きると思う。

	よる疲弊や注意力の 欠如などにつなが ないようにしてい く必要があると考 える。		
--	--	--	--